

## 未来のヒーローごっこ

拡張現実と漫画表現の同期



第一回「未来の遊び」学生 コンテスト 応募作品

## コンセプト

近年、「セカイカメラ」<sup>(注1)</sup>に代表される、**拡張現実** (Augmented Reality)<sup>(注2)</sup>の技術を用いた媒体が注目されている。

現実にはデジタルの世界をオーバーレイさせるこの技術は、未来に向けてその有用性に期待が高まっている。

一方、**漫画**というのは、今や日本を代表する文化となりつつあり、誰もが子供の頃に熱中する媒体でもある。

子供達は、漫画の主人公と自分を重ね合わせ、まるで超人にでもなったかのようにヒーローごっこをして遊ぶ。

今や子供だけではなく大人にも親しまれている漫画は、夢を与えてくれる。

本提案は、< 拡張現実 > と < 漫画 > を掛け合わせ、**漫画のセカイと現実のセカイを同期させたい**という未来への夢である。

自らの行う行為によって、様々な漫画表現が現実にも可視化される。

大人も子供も漫画のようなセカイを**実体験**し、**誰もが主人公 (ヒーロー)**になれる、そんな未来の遊び。

(注1) 頓智・(トンチドット) が無償で提供している iPhone 上で動作する拡張現実ソフトウェア

(注2) 現実環境にコンピュータを用いて情報を付加提示する技術、および情報を付加提示された環境そのものを示す。

## ◆説明書 & 注意書き◆

あなたの行為に沿って、漫画のような効果<sup>(注3)</sup>が可視化されます。ぜひ色々な行為を試してみてください<sup>(注4)</sup>。

(注3) 漫画には効果音があり、効果線がある。物語のダイナミズムは、ストーリー構成とは別にそれらの効果から生み出されていたりする。

(注4) 右のシートは、行為によってどのような効果が出るのかを例として示したものである。それぞれ発生条件がある。



### 【ドン】

両の手を勢い良く前に突き出した時に出る文字。まるで前に何か衝撃が伝わったかのように。友人を驚かせる際に有効。



### 【ピョーン】

飛んだ距離に従って「ピョーン」という文字が伸縮する。高く跳んでいるような錯覚が起きるが、決して飛距離は変化しない。



### 【パン】

手を豪快に突き合わせた際に出る文字。圧力に応じて「パン」の文字が大小する。拍手をした際は「パチパチ」という文字が出現する。



### 【zzz】

眠ったことを感知した瞬間、「zzz」という文字が出現。これでは授業中に寝ることもままならない。眠りが深いか浅いかはzの大きさで特定できる。



### 【カリカリカリカリ】

鉛筆及びペンなどで、文字や絵を書く際に出てくる。速く書けば、より速くカリカリ音がする。強い筆圧で書けば、ガリガリという濁点を含んだ音に近くなっていく。



### 【くるくる】

重心を崩すことなく、体の軸を中心に回ると、一回転につき一回「くる」が出る。左絵のように「くるくる」となるためには、二回転必要。回り過ぎて酔わないために注意が必要。



### 【ピタ】

動いている物質の速度 $v$ が0になったときに出てくる文字。 $v > 0$ だと出てこないの、出す際は注意が必要。運良く「ピタ」が出せた場合は、少しハッピーになれるかもしれない。



### 【タッタッタ】

速度 $v=10(\text{km/h})$ 程度で走ると出てくる効果。これを出せば、待ち合わせに遅れても相手の怒りは緩和されるかもしれない。しかし、大人はスマートに歩きたいものである。



### 【ダダッ】

初速度 $v_0=15(\text{km/h})$ で勢よく走り始めた際に出てくる。徒競走で、走り始めたのにこれが出ないと恥ずかしい思いをすることがあるので、要注意。